

地域おこし協力隊活動記

小正月の飾り物

地域おこし協力隊の菅原です。

赤・黄・白の色とりどりの飾りが枝に実って広がる…。
こう書くとひな祭りようですが、違います。

今回お話ししたいのは「木ダンゴ作り(だんご刺し)」。小正月の飾り物です。

食生活改善推進員会やキッズクラブの方々、子どもたちの協力を得て「おやつ教室」で作っているところを見学してきました。

「木ダンゴ」といえば東北地方に伝わる小正月の風物詩ですが、実際に作るところを見るのは初めて。町史によれば、小戸神は四角に切った餅、上羽出庭は餅を細かく刻んだものと縁起物の煎餅、飯豊上は米粉の団子、吉野辺は餅や団子が使われていたとのこと。基本的には山桑に刺すようですが、和名田・谷津作はミズの木(ミズギ)、飯豊下はカンピキの木、仲町は柳の木を使うそう。小野町の中でも結構な差異があったようです。



今回は団子粉と食紅、水を使って三色団子を作り、持ち帰りやすいようにミズの木の小枝が使われました。

小正月は日本に古くから伝わる行事です。そんな行事の一端を知ることができて、とてもおもしろかったです。



団子をこねこね★



ふるさと小野町会

ふれあい通信



橋本 昇

- 谷津作出身
- 千葉支部

映画『のびゆく小野町』 を知っていますか

昭和30年頃でしょうか、小学校の講堂でこの映画を見ました。冒頭「こ・の・映・画・は…」と文字が一つずつ出て、小野町の今の姿を写し取ったものだという説明がされます。当時の小・中学校の先生方が16ミリフィルムに記録し、録音と音楽とナレーションをつけて仕上げた白黒映画でした。

駅からはバスが出て、買い物客でにぎわう荒町の商店街やお神輿と大倉獅子の出る塩釜神社の祭、杉木立の東堂山、夏井の諏訪神社などが映し出されていきます。私たちは画面の一つ一つに「あ、あそこだ」「大倉獅子だ、中はS君だ」などとささやき合っていたものでした。

当時の商店街には、さまざまな種類の店が並び、今では見られない鍛冶屋・桶屋・蹄鉄屋などもありました(馬車が荷物を運んでいたのです)。商店街が最もにぎわうのは正月の「二日市」で、籠を背負い多くの人がやってきました。

今は車の時代になり、人の多い場所は郊外の大規模スーパー周辺に移り、町のあちこちに自動車整備工場・ガソリンスタンド・コンビニがあります。最近、横町の一部と荒町の川向かいには河川改修で多くの家が移転し、この河川改修により、町が大きく変わろうとしています。

町の構造が変われば、それに合わせて人々の生活も変わっていきます。もし今『のびゆく小野町』をつくろうとしたら、どのような映画になるのでしょうか。